

第12回平和に関する市民勉強会議事録

文責：浜田

【日時】2008年11月15日(土)14:00～16:00

【場所】奈良県社会福祉総合センター6階第3会議室

【参加者数】8名

【テーマ】「蟹工船」を読む

【概要】

- [1] 問題提起「蟹工船を読む」～小林多喜二の時代と現代の共通点と相違点～
宮本次郎氏(県議会議員)
- [2] 参加者全員での話し合い

【勉強会内容】(補足は議事録作成時に浜田が追記)

[1] 問題提起 : 「蟹工船を読む」～小林多喜二の時代と現代の共通点と相違点～

(1) 「蟹工船」とは

- ・ 1929年小林多喜二作。当時小林多喜二はまだ共産党員ではなく、直後に入党。
- ・ 小林多喜二は1933年に特高(特別高等警察)により逮捕され、虐殺された。
- ・ 今年上半期で40万部売れた。毎日新聞のアンケートによると、「共感できる」が51%、「できない」が29%。貧困の問題に共感する人が多い。

(2) 現代との共通点

- ・ 青年の雇用実態を生で聞くために2005年秋から直接対話してアンケートを取ってきた。下記のような声を聞き、最近の数年間で「蟹工船」と似た状況が広がっていると感じている。
 - 非正規雇用労働者が名前と呼ばれない。数々の差別待遇、暴力、セクハラを受ける。
 - …非正規雇用労働者がモノのように扱われる。
 - 非正規雇用労働者が生活難のため、保険料を納められない。
 - …年金、医療の枠組みからこぼれ落ちる
 - 正規雇用者にも厳しいノルマが課せられる。出来高払いにより収入が大幅に減少した。
 - 教員への評価制度導入によるプレッシャーにより助け合う気持ちを喪失した。
- ・ 「蟹工船」に借金を作らせた状態で働かせる周旋屋が出てくるが、現在の派遣会社にも似た話がある。偽装請負が問題になったC社の工場周辺には寮以外は派遣会社が経営するコンビニが1軒あるだけで、値段が異様に高いそうだ。派遣労働者は寮費、食費だけでなく、TVや冷蔵庫のレンタル代も引かれ、長期休みには稼ぎがないのに支払いだけは続く状態になってしまう。

(補足説明)

「偽装請負」 (asahi.comより転記)

メーカーなどの企業が人材会社から事実上労働者の派遣を受けているのに

形式的に「請負」と偽って、労働者の使用に伴うさまざまな責任を免れようとする行為

- ・ 厚労省が5年ごとに就労基本調査を行なっている。それによると、2007年奈良県の若年層(15～34歳)の非正規雇用の割合は37.6%(2002年は31.8%)。年収300万円未満の割合は65.2%(2002年56.4%)。また、非正規雇用のうち、300万円未満の割合は99%

(3) 現代との相違点

規制緩和、労働者派遣法の法制化 政府が財界の横暴を擁護

当時は資本家同士の争いが熱を帯びていたことが労働条件悪化に繋がった。最近、政府が財界を擁護するために労働条件が悪化している。

- ・ 1985年労働者派遣法成立 …対象は13業種のみ(1996年改正で26業種に拡大)
- ・ 1995年日経連「新時代の日本的経営」政策提言 …現在も生きている
労働者を3つに分類し、雇用の弾力化、流動化を提言

- ・1999年派遣法改正 ……原則自由化、6業種のみ認めない
- ・2004年派遣法改正 ……派遣受け入れ期間延長、製造業も解禁
- ・非正規雇用労働者数の推移を見ると、1999年、2004年の法改正後大きく増えている。
- ・大企業の利益配分を見ると、01年～06年で配当金、役員報酬が増え、従業員給与は減少。
- ・自民党、民主党は年初に財界詣でをして政策を提出し、評価が上がると政治献金が増加している。
- ・法人税を下げてきた結果、企業の利益が増えている。

自己責任論

- ・一般にはゆとり教育によって学力が低下したと言われているが、授業時間を減らして基礎的な内容を間引いたために短時間で難しいことを教えることになり学力が低下したと考えている。その影響で勉強嫌いの子どもが増え、若者の自己肯定感を奪っている。その結果、仕事に就けないこと、病気になったこと等を自分のせいと捉える「自己責任論」が若者を支配している。
- ・「蟹工船」では労働者同士のつながりが強いが、派遣社員は短期間で職が変わり仲間が得にくい状況にある。

民主主義への弾圧の変化

- ・80年前、普通選挙法と同時に治安維持法が成立。たくさんの方が逮捕された。
- ・共産党の議会報告ピラを配布しただけで逮捕されるなど、民主主義への弾圧は今もある。しかし、共産党が合法化され、街頭演説が自由にできるなど、弾圧は少なくなった。

(4) 広がる青年たちの運動

- ・このような状況の下、若い人の運動が広がっていることに関心を持ちたい。
- ・10/5 青年大集会に4600人集まった。…毎日新聞一面で報道
- ・共産党志位委員長の派遣問題に関する国会質問動画再生多数 (YouTube2/8分13万回、10/7分6万回)。新規入党者も今年1万人 (奈良県でも100人越える)
- ・地方の保守層からも地方切り捨ての政治への批判があり、共産党への期待の声が寄せられる。

(5) 世界に広がる危機感と新しい社会への模索

- ・国連「人間開発報告書」…格差と貧困の拡大を報告
2000年に目標設定。2005年目標達成絶望的。世界の5人に1人は1日1ドル未満で生活。
- ・日本の貧困率 (所得の中央値の半分以下の人割合) は先進国中2番目に高い。
- ・ポスト資本主義、マルクスを見直す動きが広がる。…世界中の多くのメディアで取り上げられる。
- ・中南米で社会主義を目指す政権が増えている。
ニカラグア、ホンジュラス、ベネズエラ、ボリビア、エクアドル
- ・最後に共産党の考えを述べる。まず、当面は資本主義の中で大企業中心の財界支配とアメリカ言いなりの状況を変えることにより、まともな資本主義を作り民主的な社会を発展させる。そのうえで、遠い将来に資本主義に代わる社会主義、共産主義への移行を目指したい。

[2] 質疑応答と議論

*個人名は記入していません。以下の()内のアルファベットが同じ発言は同じ方の発言です。

また、内容を整理したため、発言の順番を変えている箇所があります。

<時代背景>

(A) 小林多喜二が「蟹工船」を書いた1928～1929年とはどういう時代だったか。

(M) 一般の農村の暮らしはとても苦しかった。小作料を地主に納める小作人の中には、やむにやまれず自分の子どもを身売りに出すものもあった。

農村から吐き出されてくる労働者が工場で働き、資本が蓄積されていった。お金があるだけでは資本主義は生まれず、このような資本の蓄積があって初めて資本主義となる。さらに日本は植民地支配を狙って外に進出し日中戦争をしかけた (満州事変1931年)。

男子の普通選挙権が 1925 年にできたものの、同時に治安維持法もでき、財閥が政治を握って絶対主義的天皇制を敷いていた中で、民主主義や労働運動を弾圧していた。

< 売れた背景 >

(B) 「蟹工船」が急に売れたのは今年？

(M) 今年 1 月に雨宮処凛さんが対談のなかで取り上げたのがきっかけらしい。また、漫画になった（東銀座出版社等）ことも後押ししているようだ。漫画を読んでから、原作を読む若者もいるらしい。

(B) 40 年近く前の学生の頃に読んだが、当時でも既に昔の本だった。時代が異なるのでわかりにくい言葉が多々出てくる。例えば、“バット”という言葉が出てくるが、それが“ゴールデンバット”というたばこを指すことがすぐにはわからなかった。読みづらい箇所が多いはずなのにブームになったり、「蟹工船」に共感する人が多いというのは、相当ひどい状況なんだろうと思う。

私たちの世代の人間で話をすると、非正規で働く若者に対して「あいつら怠けているんだ。真剣に働いていないんだ」と言う人がかなりいる。「そうじゃないらしい」という話をするのだが、なかなかわかってもらえない。

< 労働者派遣法と法律違反 >

(M) アンケートで対話した人の中に、ひどいあざがある人がいた。聞くとミスをして監督に蹴られてあざができたという話だった。それなのに、それを自分のせいだと思い込んでいる。

(C) 今の話も含めて、問題となっていることに違法なことが多い。もちろん、派遣法ができてそういう立場の人が多くなったのだが、まず、違法な部分を取り締まらないといけないのではないか。

(M) 2 年前くらいから違法なことを取り締まる運動をやっている。しかし、実際にはそれは無理だ。一つの職場に正規社員と給料 3 分の 1 の派遣社員がいると、違法なことをやってもかまわないと言っているようなもので、全く人権意識が生まれにくい。だから、ミスして殴られたり、ストレスが派遣社員に向けられたりする。やはり、非人道的な扱いを認めるような法律の下ではいくら取り締まっても限界がある。

(B) 法律がひどい上に、その法律すら守られていないのだろう。派遣社員の権利が守られないことで正規社員の労働条件も悪くなり労働者全体の人権が守られなくなっている。

橋下知事が職員に対して民間はサービス残業をやっているのだから文句を言うなとサービス残業が当たり前の発言をした。それに対して職員が批判すると、職員の方を批判する声が多かった。橋下知事の発言を支持することで結果的に民間側の労働条件も悪くなっていく。そういう悪循環が目立っている。

(E) 先ほど話に出た人たちは暴力やセクハラ、サービス残業に対して訴えることはしないのか。

(M) 労働相談に行って労働組合に入り、交渉の結果いくらかの和解金をもらった例はある。ただ、たいていは辞めるか泣き寝入りだ。

(E) 昭和の初めと比べると、労働基準法などの法律が整備されている。先に紹介された事例は違法なことが多い。法律ができていのに、知識の不足や知っていても行動に移さないことが今の悪い状況の原因になっているのではないか。

私の周りでは、派遣社員の面接を行なう場合でも複数人からの選択は駄目で、しかも派遣会社から来る情報には個人情報記載されず業務に関する経験の有無くらいしか記載されていない。派遣社員も随分守られている気がする。（補足：通常派遣先が派遣社員を選ぶ面接を行なうことは禁止されている。）

また、面接の時も女性の場合は複数人対女性一人にはしないし、閉じた部屋で行なう場合もドア側に女性が座り、面接する側は奥に座るなどの配慮はしている。オープンなスペースでやることもあり、面接を受けた人から逆に批判やクレームが出るほどだ。こういうように、私の周りでは法律を充分意識し守ることが普通の環境になっている。最近では違法なことに対してはキヤノンや松下の裁判でも労働者側が勝っている。勝てる環境にあるのだから法遵守に関しては工夫すればできることはたくさんあるはずだ。

- (M) 派遣契約は3年経ったら常用雇用にしなければならない。2006年に偽装請負だったところを派遣に切り替えたところは2009年に期限を迎えるので、契約をいったん打ち切って別の派遣会社を入れるなど変化があると思う。来年は法律を変えて3年の期限を延ばす動きが出たりするかもしれない。
- (E) 今も期限前に派遣契約をいったん打ち切って、3ヶ月して再雇用しているケースが多いようだ。
- (M) 先に紹介した2回目の志位委員長の国会質問が、3ヶ月と1日だけ別部門に移すクーリング期間と呼ばれるものについてだった。この期間だけ空白期間を作れば派遣労働の継続性が失われて使いまわされてしまう。このような抜け道が広く使われている。
- 福岡の電気会社で、仕事場にロープを張ってここからは別会社の管理だから請負部門だと言って自社で指揮命令しながら偽装請負をやっていた。すると、その会社を別の会社が研修に行き、ロープを張ればよいのだということになって福岡から一気にロープ方式による偽装請負が広がった。法の抜け穴を皆で研修に行くようなことが行なわれている。
- (D) 派遣法改正の方向で進んでいるという話だったが、派遣社員をなくす方向に進んでいけるのか。
- (M) 派遣社員には2通りあって、派遣会社が常時雇用していて派遣先を都度決めるパターンと、必要な時だけ派遣される登録型と呼ばれるパターンがある。派遣を全部なくすところまでいきたいと思っていたが、自民も民主も派遣は必要との考えなのでそこまではいきそうにない。登録型に劣悪な労働条件のものが多く、登録型をなくそうという議論になったが、登録型の一部は必要だという経営者側の立場に立った声が強まっている。もう少し巻き返さないといけない。
- (A) 派遣は極端に言えば人身売買される存在だ。そういう職業があることが問題だ。
- 資本主義社会においては、虐げられる存在を合理的に使おうとする。だから、派遣そのものをなくさない限り、いい加減な対策では解決しないと思う。
- そのためには、まず、小さい頃から人権意識を持つようにすることが大切だ。
- (M) 先に話の出てきたことについて、それは違法だとこちらに言われて初めて気付く人が多い。現在あるものが既に決められたことで変えられないものだという感覚が強いように感じる。
- (A) そういうある意味での忍耐強さが集団主義になったりファシズムになったりする危険性を孕んでいる。

<ソ連>

- (B) 「蟹工船」を読み直してみると、遭難してロシアにたどり着き、ロシアは働く人がいばる社会だという話を聞いて帰ってくる場面がある。
- ただ今読むと私たちはソ連の収容所などを知っているので、少し違和感を感じる部分がある。
- (M) 私は1920年代始めのソ連とスターリン政権になってからのソ連は違うと思っている。当初は民主化を進め社会保障を充実させ労働時間も守られた。スターリン政権後に覇権主義になり、政治犯に強制労働させるような国になっていった。
- (B) しかし、スターリンのような人間が出てきたら変質してしまう体制はやはり体制自体に問題があるのではないか。
- (M) 時代的な制約があったと考えている。複数政党による選挙で政権を取ることが保障されていなかった時代だった。どうしても武力闘争で労働者が実権を握るという中で、共産党一党独裁になってしまった。
- (B) 資本主義という段階を経なかったことが問題だったのだろうか。
- (M) 資本主義を経て民主主義的な感覚を充分培い、その中で市場経済に鍛えられた社会主義にならないと花開かないと考えている。

<現在の社会主義国>

- (M) 日本では中国を悪く言う報道が多いが、中国は百年単位で物事を見ているところがある。
- 豊かになれる人から豊かになって、その影響で他の人たちが貧困から抜け出すという先富論を進めている。まだ貧困は残っているし犯罪も多いが、1日1ドル未満で生活する生活者が4.9億人から0.8億人

に減っている。また、覇権主義は採らず、自らの発展を出発点において豊かな生産力で世界に貢献するという穏やかな考えを持っている。

中南米の社会主義は少し異なり、アメリカの傀儡軍事政権を倒して左翼・中道路線に走った。その中で何人かの指導者がソ連型とは違う社会主義が必要だろうと述べている。ただ、ベネズエラでチャベス大統領を永久指導者にしようとする国民投票が行なわれるなど、危うい方向に進みそうな動きもあるので注意が必要だ。

(B) 私も中国には期待している。しかし、中国の人権状況は非常に悪い。死刑の数も桁はずれに多い。今の人権状況にある限り、中国に世界のリーダーシップを取らせようという国は出てこないだろう。

(M) そういう弱点を持ちながらの発展となっていることは事実だ。

(C) 中南米の社会主義化の話があったが、これは本当に良い方向に進んでいるのか。今行なわれている社会主義化は選挙で選ばれた政権による点が昔とは違う点だが、やっていることは企業の国営化だ。それで失敗したソ連との本質的な違いはあるのか。

(M) 中国では連想というコンピュータ会社を国営にして市場経済の中で民間企業と競わせ、その中で連想は勝ち残っている。市場経済で鍛えられた部門が国営企業として生き残っていくという流れがある。私たちもそこに着目している。遠い将来、社会主義に進むときは国営化する部門を宣言して選挙に臨み、勝った場合その部門を国営化し、結果として国営化した部門がうまくいけば続いていくし、駄目なら選挙に負けていくということになる。

エクアドルのコレア大統領は、参加型で徹底的に民主的な社会主義を促進すると強調し、資本主義を乗り越える第一歩をやっている。こういうところが選挙や市場経済で鍛えられて政策選択をしていくなれば、新しい経済モデルになっていくと思う。

さらにもう一つのモデルはヨーロッパにある。国が介入して資本主義のルールを作り、労働時間を守るとか社会保障をきちんとやるとかしながら、世界で勝ち抜ける企業を増やしている。

(B) 中国は一党独裁がやはり問題だ。もう一つの問題は言論の自由。そういう体制下でいくらすばらしいといわれてもそうは思えない。

(M) 1998年にそれまで断絶していた日本共産党と中国共産党の関係が改善した。今の中国の若い幹部は文化大革命の時に冷遇されていた人が多く、聞く耳を持っている人が多い印象を持っている。

(B) 中国は北朝鮮などと違い世襲がないのは良い点だ。ただ、自由主義経済を取り入れて極端に金儲けに走っている。貧富の差が大きく、金持ちが使用人を雇うと全く人権を無視していることが多いようだ。

(M) 半年に1回中国共産党と理論交流をやっている。人民に対する抑圧は良くないというこちらの主張を特に感情的になることなく聞くには聞く。その点は変わってきている。

(B) でも、チベットやウイグル地区の話は別では。

(M) そこまではまだ踏み込めていない面がある。

<今後どうすべきか>

(E) 派遣がすべて悪のような話もあったが、もっとマクロで見たら、何年か前は国際競争力を強化しなければならぬということがあって規制緩和が行なわれ、その中で派遣社員という形も生まれてきた。格差など負の部分があったのは事実だが、派遣はすべて駄目というだけではなく、どうしたらよいかを考えないといけない。

(M) どちらの側からの自由化だったかを考えると、財界側からだったと思う。労働者のニーズに応えてと言うのなら、他国のように非正規社員の方が正規社員より時給が高いことや、年金が保証されるということがセットでなければならない。そうでなければ、派遣や契約社員はやってはいけない制度だと考える。

(E) 派遣社員らの待遇が改善された時に、失業率が上がったり、正社員も含めた全労働者の待遇の悪化になるかもしれない。

(M) 雇用で言えば、同じ公共事業でも病院を建てた場合、道路を作るよりはるかに多くの雇用の波及効果が

あると言われている。

日本社会が将来、軍事費や高速道路建設費を減らしたり、車に乗らなくてもコミュニティバスなどの公共交通を普及させたり、社会保障をもっと充実させたりできれば、そういう場での雇用も増えるはずだ。大企業の内部保留金が非常に多く、トヨタは13.1兆円、資本金10億円以上の大企業で3百兆円以上と言われている。企業側も内部保留金を溜めるのではなく社会的な役割を果たす流れが強まっていけば、正社員を派遣社員に置き換えたのと逆の流れにすることは可能だと思う。

日本は内需を大切にしていなかった。輸出産業の儲けに頼り、食べるものは輸入に頼って国内で作らなくなった。内需を大切に国内でものづくりをし、農業も大事にする。また、個人が心配しなくても年金がもらえ医療も受けられると思えばお金が消費に回るので日本経済は良い方向に進んでいくはずだ。

(C) 農業の国営化はないのか。

(M) 国営化とまでいなくても、公金をつぎ込んで政府が農家を守っている国は多い。そうでないと、何かあって食料が入ってこなくなると生きていけない。

(C) 「蟹工船」を読み直してみて、小説だからかもしれないが、労働者同士の繋がりが非常に強いと感じた。

昔は労働者が皆同じ弱い立場にいて協力しやすかった。今は正規・非正規の違いなど置かれている立場に大きな差があり皆で手を取り合うことがない。特に派遣社員の場合、個人ごとに孤立してしまい横の繋がりがいいから、会社との話し合いにしても全部一人でやらなくてはいけなくなる。

ただ、大和郡山市のM社で派遣社員9名がストライキを起こしたという新聞記事を数日前に読んだ。9名は労働組合に入っているようだ。珍しいから記事になっているのだろうが、こういう繋がりも起こりつつあるようだ。

(A) 社会構造が個人主義化して、個人主義にマッチしたシステムになっている。小さな空間に仕切られ個人の世界だけが確保されるようになってきているので、横のつながりは希薄になってしまう。

(M) 奈良県が東京に作っている大学寮は昔は3人部屋や4人部屋だったが、今は全部個室になった。

(B) ネットの世界は連帯と言えるかどうかはわからないが、一つのところにわぁーっと行く。中国でも反日デモをネットで呼びかけるとたくさん集まったりする。

(M) 韓国の学生デモでもそうだったし、アメリカのオバマ氏もネットで連帯を呼びかけ大統領選に勝利した。

(A) 老若男女誰しも電車に乗ると何かあるごとに携帯を取り出して操作していて、かなり病的だ。

ネット社会は危うく、安定した思考回路を経ないで反射的な反応をしているような気がする。

(B) ただ、今の学生は携帯やネット環境を持っていないと就職にも影響する。電子メールで連絡するからと言われて、持ってないとそれで終わってしまう会社もある。

(C) 日本は資本主義でありながら、ずっと雇用が守られてきた。それがこの10年くらいで崩れてきた。ただ、元に戻そうという意見もあまりない。派遣は駄目だとなった時に、終身雇用で代わる新しいモデルが必要だ。

(B) 正規雇用と非正規雇用の労働条件が同じになれば、雇う側に非正規雇用のメリットがなくなる。同一労働同一賃金がスタート地点ではないか。

<最後に>

(M) 「蟹工船」を読んだ若い世代が、人間的な連帯や自国の労働者や農業を大事にしながら将来の社会を作っていくとすれば将来は明るいと思う。実際にそういう方向に世界も日本も進んでいこうと思っていて。今までにはなかった人たちから共産党への期待が寄せられているので、次の総選挙で共産党が伸張して政治の中身を問うていく流れにしたいと考えている。

以上